

経団連自然保護協議会・経団連自然保護基金 創設 25 周年特別基金助成事業
「アジア・太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業・SATO YAMA UMI プロジェクト」
【採択決定のお知らせ】

公益社団法人日本環境教育フォーラム(以下 JEEF、理事長:川嶋直)、一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京(以下 BL、代表理事:鈴江恵子)及び一般社団法人 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン(以下 CI、代表理事:日比保史)は、経団連自然保護協議会(会長:二宮雅也)による特別基金助成事業公募において、3 団体協働プログラム「アジア・太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業・SATO YAMA UMI プロジェクト」の事業提案を行い、本年 5 月 23 日、同協議会による採択が決定いたしました。

本特別助成事業は、経団連自然保護協議会、及び、経団連自然保護基金の設立 25 周年を記念し、持続的社会的の実現に向けて、国際的な重要課題である「愛知目標」、及び、「SDGs」の達成に効果的な「人材育成」や「有益な情報の共有促進」の活動を重点的に支援し、生物多様性の主流化を促すことを目的として実施されるものです。国内外の NGO/NPO、非営利団体の複数の協働事業、また、2017 年度から 2019 年度までの 3 ヶ年の事業期間、総額 1 億 5000 万円の事業規模として、昨年 11 月に発表されました。

事業公募期間において、国内外から 55 件のプロジェクトの応募があるなか、JEEF、BL、CI の 3 団体による本プロジェクトが採択されました。特に、以下のようなポイントが高く評価され、経団連自然保護協議会・運営委員会による二度の審査を経て採択されました。

■採択要旨

- ①2010 年に愛知県にて開催された生物多様性条約第 10 回締約国会議(COP10)において掲げられた愛知目標「人と自然の共生」の実現のために重要とされ、世界から評価された「里山・里海」の考え方をテーマとして、効果的な人材育成と情報の共有を目指す。
- ②異なる特色をもつ 3 つの団体が議論を重ねて、それぞれの団体がもっているネットワーク、あるいは、アジア・太平洋地域におけるフィールドを活かしながら 3 団体が連携・協働して活動を進めていく体制を構築。
- ③アジア・太平洋地域の湿地、森林、島嶼、環礁といった多様な自然環境を対象とした様々な計画を立案・実施することで、愛知目標の目標達成年である 2020 年に向けて、アジア・太平洋地域の人材育成のためのパートナーシップをより力強いものとし、COP10 から 10 年間の大きな成果として、世界に発信していく。

■実施事業概要

事業名称 :「アジア・太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業・SATO YAMA UMI プロジェクト」

事業者 :公益社団法人日本環境教育フォーラム

一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京

一般社団法人 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン

事業期間 :2017 年度～2019 年度(3 ヶ年)

事業規模 :1 億 5000 万円

■プロジェクト概要

【3 団体協働による事業活動の目的】

「アジア・太平洋地域における 3 団体協働事業」

(公益社団法人日本環境教育フォーラム・理事・事務局長: 瀬尾 隆史)

アジア・太平洋地域における生物多様性保全と人材育成については、以下の 3 点の事実から特に重要性が高いと考えております。まず生物多様性の危機に瀕しているという世界の生物多様性ホットスポットのうち、約 40%がこの地域に集中しており、また、生態系の健全性の指標生物種とされる鳥類の絶滅率が最も高いエリアです。一方で、同地域は、世界の人口の約 60%を有しており、また、その GDP も近い将来、世界の 50%を超えるると予測されています。

急成長を遂げているこのアジア・太平洋地域において、生物多様性が保全され、持続可能な社会へ転換することは極めて重要です。この課題を解決するためには、この地域に暮らしている人々が、自分たちの社会や自然に対して、しっかりと理解し、意識や行動を変えていくことが必要であり、地域の人々、子どもたちや若い世代も含めた人材育成が重要です。

事業を構成する私たち 3 つの団体は、各々、様々な活動や実績により積み重ねてきた強みや得意分野を持っています。JEEF は、幅広い環境教育のメソッドや教材制作のノウハウに長けています。CI は生態系全体に対する科学的アプローチを用いたフィールドワークに、また、BL は、生態系の頂点に立つ鳥類を環境を測る指標として生物多様性の保全活動を行っています。またそれぞれの団体は日本のみならず、欧州や米国にも拠点を有しており、世界的な情報発信力も、この 3 つの団体の協働による強みのひとつです。

このような各団体の特徴を活かしたシナジー効果を創出し、アジア・太平洋地域における生物多様性保全の主流化と、そのための人材育成を効果的に行っていく。そのような発想から、今回、3 つの団体による協働プロジェクトを考案いたしました。

【実施 6 カ国・地域の選定】

「SATOYAMA イニシアティブという視点」

(一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京・代表理事: 鈴江恵子)

私たち 3 団体は、生物多様性保全の主流化を実現するための手法として「SATOYAMA イニシアティブ」に注目しました。これは、2010 年に COP10 が愛知で開催されたときに、日本が世界に向けて提唱したもので、当時は、里山という考え方はまだまだ浸透していませんでしたが、それから 7 年が経過して、現在では、「SATOYAMA」は、自然環境保全に係わる関係者のあいだでは良く知られたキーワードになっています。

2020 年の愛知目標達成に向けた進捗状況を評価すべき現時点において、「自然の恵みを持続的に活用することによって、生物多様性保全を主流化する」という SATOYAMA イニシアティブは、重要な意味合いを持つ

ものです。私たち3団体は、世界各地のフィールドで“里山活動”を行っていますが、今回は、そんなフィールドからアジア・太平洋地域を対象に6カ国を活動地域として選定し、その地域で自然を大切に想い、環境保全活動を実践していくことができる次世代の人材育成に取り組むことにしました。

活動地域の選定については、「SATO(里)・YAMA(山)・UMI(海)」という視点から、地域性や生態系の多様性を幅広く網羅することを重んじました。「SATO(里)」にあたる地域が、「ブータン」と「カンボジア」、「YAMA(山)」は、ベトナムとインドネシア、そして、「UMI(海)」は、ニューカレドニアとサモアです。特に「UMI(海)」については、世界の楽園と呼ばれる太平洋の島々については、人々が自然と共生してきた伝統的な考え方や叡知といった文化面にも焦点を当てた活動を行っていきます。

今後3年間に亘って実施していく、この6つの地域における「SATO YAMA UMI」の活動において、環境教材や動画コンテンツなどを制作し、また、「SATOYAMA イニシアティブ」にもあるように、それぞれのつながりも含めた情報発信を行っていきます。

【プロジェクトが目指す成果】

「3つの階層による重層的な次世代リーダーの育成」

(一般社団法人 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン・代表理事: 日比保史)

今回の事業のポイントである、教育・啓発・交流について、私たち3団体は、その具体的なステップとして3つの階層での取り組みを実現します。

第1階層は、活動対象国の6つの地域に根差した活動です、これらのフィールドでは、先住民の方々も含めて、その地域コミュニティの人々はその自然のなかで、これまでも、また、これからも生活を営んでいく場所です。そこで如何に生物多様性の重要性を再認識していただくことを、私たちが共に学ぶという姿勢で考え、その上で、それをどうやって持続可能なものにしていくか、ということに力点を置きます。

第2階層は、第1階層の地域コミュニティにおける活動を発展させ、都市部に生きる人々を対象とした活動を行います、アジアとは広大な地域であり、経済的な発展の度合いも様々です。そのなかで香港やシンガポール、あるいは、東京といった都市部において、あまり自然に触れずに育ってきた若い世代を対象とした地域コミュニティとの交流プログラムを実施します。アジアの活力を支える次世代リーダー層でもある彼らに、私たちの社会や経済活動を支えてくれている生態系サービスの重要性を認識していただくことが目的となります、

第3階層では、これら2つの階層での活動をベースに、このプロジェクトに直接関わる人々以外にも拡げていきます。アジア、あるいは世界に向けて、この地域の素晴らしさや重要性を知っていただき、それらを共通の課題として共有することで、他の地域にも応用できる解決策を掘り起こすことができると、私たちは考えています。私たち3団体は、これら3つの階層での活動を通じて、生物多様性の主流化、愛知目標の達成、さらには、国連SDGsに対しても貢献していきます。

■本事業に関するお問い合わせ

公益社団法人日本環境教育フォーラム

(住所) 116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 1F
(電話番号) 03-5834-2897
(担当者) 田儀耕司
(e-mail) koji_tagi@jeef.or.jp

一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京

(住所) 東京都千代田区三崎町 2-14-6 TM 水道橋ビル 4F
(電話番号) 03-5213-0461
(担当者) 澤祐介
(e-mail) yusuke.sawa@birdlife.org

一般社団法人 コンサベーション・インターナショナル・ジャパン

(住所) 東京都新宿区新宿 6-7-1-507
(電話番号) 03-5315-4790
(担当者) 磯部麻子
(e-mail) aisobe@conservation.org